



協同組合 関西ファッション連合(KanFA) 副理事長

### 近藤 英子 氏

(こんどう・えいこ) 2007年4月協同組合関西ファッション連合(KanFA)理事、13年5月から現職。産学協同、各種連携事業を担当する連携委員会副委員長。婦人服製造販売、エターナリー・プレイス社長。会社設立は1992年。代表的なブランドは「エイココンドウ」。

成に力を入れていた。学生達の、我々ではまず。産学連携企画で接する学生達への感想は。多くの学生達と接してきました。若い人の目は未来に輝いています。2カ月ほど前に大阪文化服装学院の学生12人が産学連携企画のために当社を訪問したときの話をさせていただきます。このとき「当社が展開するネット系を背景に「も

近藤英子氏は「ファッションが大好き」と自らのブランド「エイココンドウ」を有する婦人服ブランドの社長でもある。KanFAでは「産学連携」に携わり、ファッション関連専門学校や該当学科のある大学の学生達と交流しながらファッションビジネスの担い手としての育成に尽力する。近藤氏の「ファッションに対するパッションを聞いた。

「ファッション産市場は大きく変化して、業を取り巻く市場環境や消費動向は大きく変わりました。

ファストファッションの登場で市場の環境は変わりましたよね。日本市場にとどまらず、グローバルな世界に飛び込む情熱と綿密な戦略・戦術がなければこれからは生き残れないのではないのでしょうか。以前は高額で素材のあるファッション衣料だった日本製も、今では必ずしもそうではない地域が、アジアでも見受けられるようになってきたように、世界

## 「産学連携」で後継者

## 未来の繊維産業担う若者

「ただ、このような市場環境にあっても「同じ服を着たくない。高額でもシーズン、シーズンを自ららしく輝きたい」という気持は、とくに女性には根強いものがあります。——真けないモノ作りポイントがあり、そうすね。では、日本のモノ作りについてのお考えは。我が社のごとで恐縮ですが、日本で細部にまでこだわりのオンリーワン商品を作り続けてこれたことは大変幸せです。国内産地、縫製工場、ア

パレルメーカー、小売店輪となって日本でのモノ作りを強化し推し進めていくべきだと考えています。世界に誇れる「メイドイン・ジャパン」ブランドを発信し続けていくことが我々の使命であり、経済の空洞化により、国内産地や縫製工場が弱体化し、あるいは後継者問題を通じて後継者を育成することは継続するための

「自分が仮にブランドを持たなければならぬ。自分にはいかに真剣に取り組みます。彼ら彼女らの燃える気持ちが、繊維産業の発展を支えて行くのだと信じています。——ファッションビジネスの力強い担い手に期待したいです。ね。

ただ、このような市場環境にあっても「同じ服を着たくない。高額でもシーズン、シーズンを自ららしく輝きたい」という気持は、とくに女性には根強いものがあります。

——真けないモノ作りポイントがあり、そうすね。では、日本のモノ作りについてのお考えは。我が社のごとで恐縮ですが、日本で細部にまでこだわりのオンリーワン商品を作り続けてこれたことは大変幸せです。国内産地、縫製工場、ア

国内産地、縫製工場、ア



「エイココンドウ」のコレクション

おかげさまで  
**65<sup>th</sup>**  
Anniversary  
紙齢19,000号